

## 【Meeting Room 8】自由研究発表第4セッション

### バジョの治療儀礼実践から見る空間認識

#### インドネシア南東スラウェシバジョ集落における精霊信仰と海

加藤 久美子

(上智大学大学院 GS 研究科 PD)

バジョと呼ばれる人々は、東南アジア島嶼部各地の海岸沿い、あるいは海上に集落を形成し、居住している。彼らの主な生業は、近海での採取や漁労、遠洋航海に伴う漁労や交易であり、その生活は常に海と密接な関係の中で営まれている。バジョの儀礼実践においても、海と言う自然空間は重要である。

オーストロネシア諸島を中心に海洋文化研究を行ってきた秋道は、海洋民の航海術に関連した人々の海に対する認識について言及する中で、海洋空間に、伝説的な怪物や精霊といった存在が持ち込まれ、実在と架空が混然一体となった世界として知識が集積されていることを指摘している。人びとの言語的な分類や分節化からだけでなく、海に纏わる儀礼や神話からも、その自然環境、場に対する認識の在り方を知ることができる [秋道 1995 : 46-48]。

包括的な人間と環境の結びつき、認識される自然空間について考察したイーファー・トファンは、「人々と場所あるいは環境との間の、情緒的な結びつき」に着目し、それを「トポフィリア」と呼んだ。トファンは人々の抱くこうした経験、態度、情熱を認識することこそが、実証的であり、それらを「理論的なアプローチから除外することはできない [トファン 1997: 16]」として、この情緒的な結びつきを軸に人々と場所、空間、自然環境との関わりを多角的に明らかにしようと試みている [同上書 1997]。

これまでのバジョ研究は、海上に居住するバジョと海の関わりを、漁労や商業、移住という側面から分析してきた。また、バジョの儀礼実践や信仰に関する研究では、イスラームとの融合やバジョの持つ精霊信仰の衰退という側面が着目されることが多かった。

だが、バジョの人々にとっての海は、単なる移動経路、あるいは、漁労活動空間であるだけでなく、畏怖の対象となる祖先霊や海の守護神が棲む空間であり、ヒトとそのキョウダイ霊の住まう場である。そして、バジョの死生観とも深く結びついたキョウダイ霊との関係性は、バジョの人々を海という空間に留まらせ、惹きつける情緒的な結びつきを生成している。バジョの海洋観は、儀礼や信仰実践の場面のみならず、彼らの生き方の諸所に複雑に絡み合い、生成され、作用している。バジョの人々が、生活空間として選択する海という自然空間に対する認識を理解しようと試みる時、この情緒的結びつきを看過することはできない。

本発表は、インドネシア・スラウェシのバジョの治療儀礼に着目し、その儀礼実践に見られる海上移動、供儀地点、精霊の居場所から、バジョと海との関わり、海という空間認識の一側面を明らかにすることを試みる。そこには、海に住むヒトと精霊との繋がり、さらには天空、海中に広がる空間認識が見られ、移動に伴って拡張され続けるキョウダイ霊／海との情緒的結びつきがみられた。